



学習三原則 — 生活を正す 目標を持つ 継続する

育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911



ISO14001認証取得

「新しい情報時代のなかで」

育友会長 下畑了三



平素より育友会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今年度会長を務めさせていただきましたことになりました下畑と申します。微力ではありますが高山西高等学校と生徒たちのため、少しでもお役に立てるよう尽力して参ります。さて、新型コロナウイルスの影響で、巣こもり生活も随分長くなりました。わが家での大きな変化といえば、テレビ番組を見なくなったことです。以前は仕事を終えて帰るとNHKの7時のニュース、8時のバラエティ番組とパターンがほぼ決まっていました。しかし、このところは同じテレビ画面に向かっていますが、実際にはテレビをインターネットに置き、YouTubeを見るのが当たり前になってしまいました。

以前は子どもたちに新聞を読め、ニュースを見ろと口酸っぱく言っていた私自身が、YouTubeから情報を得るようになっていきます。子ども達も、部活動に役立つ情報から、身体の鍛え方、魚釣りの仕掛け作り、そして、釣った魚のさばき方までもYouTubeを見て会得していきます。英語や数学の番組もあるようですが、残念ながらそちらは観ていないようです。

これが良い影響をもたらすのか、悪い影響となるのか、すぐには判断が難しいところですが、通常授業が行えないときにもタブレットでリモート授業が続けられ、オンラインで試験を受ける。本のページをめくるよりも手取り早く、ネット検索を通じて一瞬で欲しい情報を得る。こんなことが、今の子供達には当たり前になっているのです。

西高校では、今の3年生が入学した年から、携帯(スマートフォン)が解禁になりました。携帯の使用については、色々な制限を掛けながら、悪い方向に進まないように模索してきた3年間だったように思います。どんなに使用を制限してもSNS等によつて引き起こされる色々なトラブルを完全に防ぐことはできないと思います。けれども、もうインターネットと繋がっていない世界、スマートフォンのない世界には戻りできません。ネット社会には、良いこともたくさんありますが、暗い闇も存在します。新しい環境で私たちが生きていくため、如何にこれらをうまく、

そして正しく利用することへと導いていくことが、学校にも家庭にも求められています。

子どもの変化を、敏感に察知し先手を打つことが、大切になってきます。そのために、家庭でのコミュニケーションはもとより、学校との連携も大切になってきます。コロナ禍をきっかけに、学校においても家庭においても、インターネットの存在が飛躍的に大きくなりました。この状況を前向きに受け入れ、育友会の目的でもある「学校と家庭間の緊密な協力力によって、生徒の心身の健全な発展をはかり、その福祉を増進すること」を改めて考えながら、会員相互においても対面のみならず様々なツールを活用して意見交換が活発にできるよう進めて参りますので、何卒ご協力ください。よろしくお願いいたします。

「日本でいちばん大切にしたい高校」へ

校長 小林隆徳



「経験」ということから、遠ざかることを強いられ続けながら、立派にコロナ禍の体育祭幹部をつとめてくれた彼ら彼女らは、進路でもそれぞれ別の夢を立派に実現して果立っていました。岐阜県でただ一人の防衛医科大学校医学部医学科合格を始め、名古屋大学医学部医学科、岐阜大学医学部医学科2名の合格は、飛騨地区でも際だった実績となります。また、部活動を最後まで頑張りつつ、筑波大学や慶應義塾大学といった難関大に進学した生徒もいます。そして多様な進路先に多彩な能力を活かし、それぞれの人生を切り開いていってくれました。

彼ら、彼女らがその能力を最大限に発揮し、それぞれの高い志を果たしてくれ、ことを祈るばかりです。

本校には医歯薬学部、看護・医療系の進路を希望する生徒が本当に多く集まり、その夢を立派に実現してくれています。その影響もあってでしょう、今年度も学校献血志願者を募集したところ134名もの生徒諸君が応募してくれました。この志の高さは全国に誇ってもよい。県赤十字血液センター所長さんからこんな電話もいただきました。本校での献血の

様子は県赤十字血液センターの紹介画像にも登場するようです。センターでの岐阜大医学部学生対象の血液センター事業視察の他にもそれが紹介され、そこに居合わせた本校卒業生の二村さんが「あの献血パスの写真の高校出身です」と誇らしげに語ってくれたそうです。

これも市内病院から伺ったお話ですが、現在その病院スタッフに占める本校卒業生の割合がきわめて高く、来年度採用試験受験者に占める本校卒業生の割合がこれまた非常に多いということで、わざわざお電話をいただいたり、その他医師会のイベントなどにもお声をかけたいたりする機会が本当に増えています。本校生徒諸君の高い志、努力を評価すると同時に、地元の関係各位のご期待を裏切らぬよう、心して運営に当たらねばと気が引き締まります。

部活動の活躍。春休み明け、それから県予選直前のGW後半にも複数の部活動でクラスター発生、クラスターにはならずとも、活動停止もありました。本校が強化している部活動は全てが、コロナに痛めつけられました。そんな中でも、生徒たちは健気に頑張っています。今年度の全国高校総体には剣道女子団体、女子個人、アーチェリー男子個人、レスリング男子個人と、4種目が出場します。レスリングの直井君、田近君はグレコローマンの全国大会進出を勝ち取ってきています。県予選での陸上の女子総合3位も初のことです。バスケットボール男子があと一歩！野球も夏の県予選、今年は初戦突破してくれました。コロナ禍の制限が厳しい中、確実に力をつけています。「飛騨から甲子園」に一歩ずつ近づいて欲しいなと思います。情報ビジネス部も全国パソコン技能競技3連覇を目指しています。この後、ウインドアンサンブルの県吹奏楽コンクール、団体、英語ディベートと続きます。どの部活動も本当によく頑張っています。コロナに負けず頑張ってください。

さて、先日は「情報モラル研究所」の上水流さんに、情報モラルに関してのオンライン講話をしていただきました。そのアーカイブ動画も無料提供いただきましたので、保護者の皆さんにも是非ご覧いただきたい。上水流さんのすごいところは、講話をするだけでなく、事前アンケートはもとより、AI、ポットを活用し、県内全ての小中高のネット状況を把握しておられることです。その上水流さん曰く、
●本校のよいところ
●生徒自身の自制心・警戒心は高く「高リスクの

「サイト」には近づいていない

●スマホやネットの家庭内ルールについては「家庭の安定度」が見受けられる。高等学校としては、高いレベルで家庭の教育力として指導力に期待できる(本校の各ご家庭の教育力は有名私立一貫校レベルだそうです!)

●「ネットだけの友達」と「リアルな友達」ではリアル重視の姿勢が多く、生徒に定着している

●スマホ・ネット関係でいやな思いをした生徒が極めて少ない。本校の誇るべき文化として生徒に定着させていくべき

●その一方で、本校生徒の注意すべき点
●AIは本校生徒たちを「だまされやすい素直な集団」として警告している

●初めての物事・相手には高い警戒心を示すが、一度「友人」と認識してしまうと警戒心が下がっていく傾向がある(なんだか自分のことを指摘されているようです)

●SNSでは「Like」(ティックトック)、Zenty(ゼンリー)の利用者割合が高い集団であることが、本校の最大のリスクである。不用意な投稿や、他者のプライバシー侵害に関する問題が散発的に継続している可能性がある。

●講話の中で一般的な注意事項として指摘されたのは、

①ばらまく危険
②つながる危険：つながりは残る
この二つを回避する行動として、PWを定期的に変える行動の推奨

③つながりなくなくなる危険：ネットに溺れてしまいう危険を指摘される。

これは1年前の育友会報にも書かせてもらったことにつながります。それは「いじめが任天堂との勝負に勝てるわけがない」ということ。

超名門の高校に通う生徒ですら、なかにはゲームにはまってしまい、自分の進む道を見失ってしまっている高校生や大人の例もあるのです。ゲームの制作企業は、ゲームにどっぷりはまるように開発します。大人でも制御できない中毒性のあるゲームになるよう、必死になつて作っているのです。そうすることで収益を上げているのですから、企業も必死なのです。任天堂

堂vs小中高生となると、任天堂が必ず勝ちます。「つながりなくなくなる危険」の好例です。だから、そもそもゲームなど始めるのはやめた方がいい。

同じことはSNSにもいえます。やるべきことがあるのにタラタラSNSにはまっている小中高生はSNSの会社との勝負に負け続けているといえるのです。

この夏休み、本校の生徒諸君には「安定して文章を読む」＝自分の「読解力を高める」ことを意識して過「過」で欲しいと思います。

共通テストは、多くの科目で「読解力」＝文章をしっかり読んで理解できる「生徒が高得点を取れる仕組みになっています。言い換えると、かなりの問題で、ちゃんと読み取れば、問題文の中に答えがある。そういう問題が増えてきているのです。

現に、東大に楽勝で合格するレベルの多くの生徒が「共通テストは楽勝。だつてしっかり読めば、問題文の中に答えがあるじゃん」といいます。

逆の言い方をすると、少し手厳しいですが、共通テストで高得点をとれない生徒の多くは、実は問題文の中にある答えがちゃんと見つけられない生徒だと言えます。

日々の授業、補習で意識して身につけて欲しい力は、自力でしっかり文章を読み取れる力。もっと具体的に、

- 文の構造
- 代名詞が指す内容
- 言い換え、二つの文が同じ意味なのか違うのか
- 問題文を絵にすることが出来る
- 定義の正確な理解

「こういつたことを、強く意識しながらこの夏、是非「読解力」を高めて欲しいと思います。

こういう力がしっかり身につくについて、はじめてSociety 5.0でAIに負けられない人材になりうるし、高貴なる使命を全うする人材になり得るのです。

Noblesse Oblige



新たな一歩を 教頭 谷口 正彦

来校いただき、盛大に開催していましたが、昨年に続き今年もコロナ禍の中、生徒のみで実施しました。来年は保護者の皆様にも来校していただける状況になることを願っています。また、9月6日に体育祭が予定されています。体育祭も生徒のみでの実施となる予定です。なにとぞご理解をお願いします。

一年生の保護者の皆様

お子様が入学され、もう4か月経ちます。ご家庭の様子はいかがでしょう。私は、1年生に廊下等で会うと「学校は楽しいか?」「学校には慣れたか?」などと問いかけてます。すると、多くの生徒が大きな声で、「超楽しいです」などと答えてくれます。とてもうれい気持ちになります。

本校では、「夢かなえる!」をキャッチフレーズに進路指導の充実をはかっています。夢をかなえるには、まず「夢を持つ」こと、次にそれに向けて「努力を継続すること」、そして何より「きつちりとした生活を送る」ことが重要です。本校は、「一生懸命頑張る子が評価される学校」「学習できる環境が整った学校」であり続けたいと考え、努力しています。

是非とも、本校の教育方針をご理解いただき、同じ方向でお子様をご指導いただきますようお願いいたします。もし、何か異変等に気付かれた場合は、遠慮なく担任に連絡して下さい。また、学校で何か気付い



163名の新生を迎えて

今年度は163名の生徒が入学してくれました。今年度も、「生徒一人一人が日々の学校生活に満足して帰宅できるようにしよう」を目標に掲げ、職員一同切磋琢磨しています。授業はもちろん、部活動においても、お子様の将来を見据えて指導にあたりたいと考えています。ご理解とご協力をお願いします。

7月4日に西高祭を実施しました。例年は500名を超える保護者の皆様に御



た場合は、ご家庭へ連絡させていただきま
す。学校と家庭とが車の両輪となつて同じ
方向で指導することが大切であると本校
では考えています。ご協力をお願いいたし
ます。そして、子どもたちの夢をかなえさ
せてやりましょう。

昨年度の進路実績

ここで、昨年度の進路実績についてご報
告いたします。昨年度も生徒たちが本当
に努力し、お陰様で就職・進学において以
下のような実績を残すことができました。

まず、就職状況についてですが、就職希
望者19名(うち公務員1名)全員が本人の



希望する企業から就職の内定をいただき
ました。近年は、企業の方から「高山西高
校の卒業生は、休まず一生懸命に仕事を
してくれる。ぜひ、今年も卒業生を紹介し
ていただきたい」というありがたい言葉と
たくさんのお人をいただいております。

次に、進学における合格状況ですが、4
年制大学216校(うち国公立39校)、短
期大学11校、専門学校38校でした。具体的
には、名古屋大学をはじめ、金沢大学や岐
阜大学、筑波大学といった国公立大学や、
慶應義塾大学や早稲田大学をはじめとす
る私立大学にも多数合格しております。

「受験の天王山」といわれる夏のまっただ
中ですが、これからの努力で大きく伸びる
可能性は十分にあります。3年生の生徒
諸君には、最後まで諦めることなく、より
一層の努力を期待しています。

活気に満ちた部活動

東海総体、インターハイ岐阜県予選及び
甲子園岐阜県予選、飛騨地区総体もどう
にか実施されました。勝利を目指し、プレ
ーする生徒はもちろんベンチに入れない
試合に出られない生徒も必死になつて声援
を送り、チームの一員として一生懸命に必
援していただきました。すばらしい光景でした。
特に3年生は、部活動を通して多くのことを
学んだことと思います。この経験を今後
生かしてほしいと強く願います。

2年連続でインターハイに出場を決めた
剣道部女子の皆さん(樋口恵淑さんは個人
でも出場)、レスリング部の直井夢希くん、
アーチェリー部の伊藤豪琉くん。本当にお
めでとうございます。インターハイでのさら
なる活躍を期待し、全校で応援していま
す。この会報が配布される時には結果が
出ている部もありますが、ホームページでご
覧ください。



情報ビジネス部は、昨年全国2制覇を達
成しました。今年も3連覇を目指し、頑張
つていきます。また、ウインドアンサンブル部も
県大会、東海大会、さらに全国大会を目指
して頑張っています。

新たな一歩を

素直で真面目な生徒が多く、学校を訪
問されるお客さんからはよく褒められま
す。また、求人に来校された多くの方から、
ぜひとも西高校の生徒がほしいと言ってい
ただいております。先日も大学の関係者が来
校され、御校の卒業生はどの子も真面目
で一生懸命にやってくれている。今まで以
上に御校の生徒がほしい」と推薦枠を増や
していただきました。非常にありがたいこ
とです。ただし、我々は現状に満足はしてい
ません。さらに、子どもたちのニーズ、保護
者の皆様のニーズ、そして社会のニーズに
応えられる学校となるように努力してい
ます。保護者の皆様も今以上に協力して
お願いします。

「夢と仲間の大切さ」

1年保護者 東 共美

娘が入学して3か月、毎日の様子を見ていても本当に充実していることが分かり、親としては安心して見守り、学校生活でも、ウインドアンサンブル部でも楽しくしているようで、うれしく思います。

娘がクラリネットと出会ったのは小学3年生の時です。5つ上の兄が中学で吹奏楽部に入り、クラリネットを吹くようになった影響で「私もやりたい」というようになり、そのころ高山西高校のジュニアバンドという吹奏楽塾で兄がお世話になるようになったことで、娘はさらに興味をもつようになり、そこで一度見学に伺い、いろいろ吹いてみて、ひとまず音が出せた楽器をやってみようということで、ホルン・サクソフーン・クラリネットなど、いくつかの楽器を実際に吹かせていただくことになりました。もちろん肺活量も少ないですし、素人の小学生に音が出せるわけがないと思っていたのですが、体験した楽器全て音が出せたため、案内してくれた高校生も驚いていたのを覚えています。「すごいね！全部音が出たね。普通は音出ないよ」と高校生の皆からはめられたことで、気持ちは完全に楽器へと向いていきました。楽器を選ぶ選択肢が増えたことで迷いましたが、兄と同じ楽器にしようということで、この日からクラリネットをジュニアバンドで習うことにしました。当時は、まだまだ手も身体も小さく、意外に大きいクラリネットを落とさないように持つだけでも、見ているこっちがヒヤヒヤしましたが、高校生の皆さんは、とても親切に持ち方から分解する方法まで、いろいろ教えて下さいました。高校生のお姉さん、お兄さんと同じ椅子に座って演奏するには、体が小さく床に足が届かなかったため、子供用の踏み台を持たせると、そこに足を乗せて小さい手指を一生懸命伸ばしながら練習していました。そんな小さな娘が、「私、大きくなったら西高校のウインドアンサンブル部に入って赤ブレ（赤のブレザー）を着て演奏する」という夢を、



このころにはすでに語り始めていました。中学校でも迷わず吹奏楽部に入部し、仲の良い友達もできました。特に仲が良かったのが同じクラリネットの仲間4人で、いつも行動を共にし、勉強の時も部活動の時も、いつも一緒にいました。多感な時期を支えてくれたもの、その仲間たちだと思います。ところが、3年生になるとみんな進路を決めなくてははいけません。それぞれが描く夢はバラバラです。ここまでの3年間一緒に過ごした友達と、これからもずっと一緒にいるわけにはいきません。こんなに仲良かったのに、高校が離れ離れになったらただ寂しいだろうか？ 大丈夫かしら？ と、とても心配でした。

ところが、そんな私の不安は、初登校の時にすでに解消されていました。娘は入学式当日、コロナの影響でオンライン参加となりました。しかし、飛騨地区外から入学された、同じオンライン参加だった同じ部のクラスメイトが、SNSで娘の初登校の日を待ち合わせして「一緒にこう！」と声をかけてくれたことでした。まさか、そんなことがあると思っていなかった私、とても良い友達に恵まれたと思いました。その子のおかげで早々に学校生活にも慣れることができ、毎日友達の話や部活動のことを楽しそうに話してくれています。

今春行われたスプリングコンサートでは赤ブレは間に合わず、制服姿ではありましたが、先輩方と同じ舞台上に上がって堂々と演奏ができた瞬間でした。7年前の姿を思い出し、本当に大きくなったなあと思うのと、夢に向かう強い思いと自分の力、仲間の支え、先生方や周りの助けで強く逞しくなっていくのだと実感しました。

小学校のころ憧れた場所で、新たな夢と仲間を大切に、これからも強く大きく成長して欲しいと思います。

「前へ向かって」

2年保護者 大前 かおる

娘が西高校に入学してから今日まで、あつという間の毎日でした。入学当初は、勉強と部活動の両立が本当にできるのか？ クラスのお友達とは仲良くできるのか？ など、本人以上に心配しておりました。しかし、気が付くともう2年生。本人なりに勉強と部活動の両立、クラスの仲間との交流もうまくできているようで安心しております。

部活動では中学校に引き続いて卓球部に入部しています。娘は小学校5、6年生の時、早い反抗期なのか、私たち親とあまり会話をしなくなり、学校での様子は分からず、娘の友達のお母様方に聞くこともありました。中学に入学し、私も中学で卓球をやっていた経験もあり、コーチをやらせていただいたことをきっかけに娘はどんどん変わり、学校の様子や部活のこと、先輩や友人のことなど、何でも話してくれるようになりました。

高校に入ってからそれは変わらず、色々なことを話してくれています。中学の時は、自分から友達を誘って遊ぶことが、どちらかというと苦手な方でした。しかし、今のクラスのお友達とはとても気が合うようで、自ら遊ぶ約束をしたりして毎日楽しんで登校しております。私は高校に入った時に卓球は諦めてしまっていたのですが、娘は中学生から今にかけて続けていられることが、母親としても嬉しく、また羨ましく思います。今はコロナウイルスの影響もあり、なかなか大会を見に行けないのですが、私は娘が卓球をやっている姿を見るのがとても好きで、娘の一番の応援団です。正直、本人としては伸び悩んでいる部分もあるようですが、大会の後は自分なりに試合の内容を振り返り、私にその試合の良かった点、悪かった点を毎回話してくれます。私たちのところと比べる卓球の技も増え、今の私では到底娘に及ぶないのですが、「一緒に」こうしていたら「こうする」と良いんじゃないか？ などと、話ができる時間があると嬉しく、楽しい時間です。部活動で体が疲れていることはわかっていますが、何か一つのことには継続的に打ち込む姿はとても素敵です。



たことにより、今まで良い緊張感をもって部活に取り組んでいるように思います。自分の引退の日まで部長として責任を持って取り組み、心を養って良い卓球部にして欲しいと思います。ガンバレ!! 自分の高校時代と比べると、とても充実した日々を送れているなあ、改めて思い、きつと良い思い出になることと思えます。

そして1年生の時は他人ごとだった将来に向けてのことも、今少しづつではありますが真剣に考える姿を見て、大きくなるとなると、辛いこと、色々なことに直面すると思えます。どんなときも前に進んでいける力をつけていって欲しいと思います。私たち親は、何歳になっても子供の一番の味方です。残りの高校生活を悔いの残らないよう楽しんで欲しいと思います。

最後になりましたが、同じクラスの皆さん。娘を取り巻くお友達、先輩、後輩の皆さん。いつも仲良くしてください。ありがとうございます。そして先生方、ときに厳しく、ときに優しくご指導してください。本当にありがとうございます。これからも娘を始め、西高校の生徒の皆さんのことを、どうかよろしく願っています。

「三者三様」

2年保護者 石澤 典子



三者三様、3人の息子がいます。恥ずかしながら3人の息子たちを紹介します。長男は落ち着きがなく、面白いことが大好きなお調子者です。

1年半前西高校の特Iを卒業しました。勉強が苦手なのに特Iに入り心配しましたが、やはり付いていくだけで精一杯でした。そんな長男ですが、1年の時にクラス会長に任命され、先生から常にクラスの状態を見て、何をすべきなのか、どうまとめていったらいいのか、を教えていただきました。まとめる力など持っていませんでしたが、「楽しく生きる」ことがモットーなので、仲間や先生方に笑っていただけたことを喜びとし、その笑いを通して助けていただきました。クラス会長としてもやっていけました。卒業式の日、最後のクラス会では司会を務めていましたので、3年間で力をついたのだと安心しました。またクラス会長を経験して、社会に出るから

主体的に動ける力がついたと感じました。大学に行くための引越しの日、スーツケース一つで1人で旅立ちました。仕事の都合で同行できず、心配でしたが、最低限必要なものを現地で購入し、アパートにも初めて行くことができ、高校では自立心を養っていただけたことに感謝しかありませんでした。

次男は口数が少なく、一歩下がって物事を見ており、先頭に立って行動することは苦手です。なんととってもマイペースで、毎日だらだらして時間の使い方が下手でした。長男と入れ替わりで次男も、西高校の特Iでお世話になっており、現在2年生です。長男とは違って毎日淡々としているので、高校生活を楽しくしているように見えません。

しかし、1年生の時に、先生に生徒会に携わらないかと声をかけて頂き、参加することになりました。入学して3か月、いきなり文化祭実行委員長に任命されたと、ため息をついて帰ってきました。入学したばかりで学校のことをわかっておらず、また、消極的な次男に務まるのか心配でしたが、このような機会は滅多にないので、チャンスを活かせるよう頑張れ！としか言うことができませんでした。2年生の今も生徒会に携わり、少しは慣れたかと思いましたが、大きな行事があるたびに不機嫌です。しかし、私達は見守るのみです。先生にアドバイスを頂きつつ、仲間にも助けてもらいながら、なんとかやっています。忙しくても勉強はしなければいけないので、隙間時間に机に向かい、マイペースなりに時間を有効に使うようになってきています。与えられたチャンスを嫌々やるのではなく、前向きに自分の力になるように取り組んで欲しいと思います。

最後に大問題の中学生の三男は、やんちゃの一言に尽きます。体を動かすことが好きでサッカーに一生懸命取り組んでいます。これまで幾度となく道が逸れそうになることがあり、その度に先生やコーチに修正していただ

いています。そして、今もあちこち逸れそうになりながら歩んでいます。また、3人目にして、初めての反抗期を迎え、毎日腹を立てながらも楽しんでます。同じ腹から生まれ同じように育てたつもりでも、全く違う息子たちに悩みながら子育てをしています。それぞれが人格を持って生まれてきたのだから、三者三様で当たり前だと思えるようになりませんでした。また全く違う3人がどのような大人になるか楽しみです。

家族だけでは育ててこれなかったと思います。先生方に親とは違った視点で子供たちを見ていただき、つけていくべき力を見極め、ご指導していただいたおかげで、生きていく力が着実に身につけていると感じています。ありがとうございます。この先も見守っていただけるようお願いいたします。



育友会活動報告 〈前期(4月~8月)〉

- 4月 7日 / 育友会入会式
新1年生163名とその育友会員を迎える。
- 4月13日 / 第1回育友会役員会
- 4月27日 / 第2回育友会役員会及び常任委員会 **中止**

- 5月11日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会
第1回常任幹事会常任幹事会 **オンライン開催**
- 5月12日 / 育友会総会 **紙面報告**
- 5月27日 / 岐阜県高等学校PTA連合会定期総会
オンライン開催

- 6月 8日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会

- 7月~8月上旬 / 私立高等学校補助金増額署名運動

「とてつもなく面白い仲間と」

1年G組 上見 遙

私には、西高校での勉学を通して国立大への進学を果たした2人の兄がいます。中学生のころから兄たちを目標とし、勉強に取り組んできました。小学校のころから、兄たちに西高校での話をよく聞かせてもらっていたので、特進クラスには、高い志を持つ仲間、熱心に教鞭を執ってくださる先生方、補習や勉強会・合宿等の充実した学習システムがあることを知っていました。それでも、中学3年生になった時、西高校への進学が公立高校への進学からの狭間で悩みました。

西高校への進学を決定づけたのは、オープンキャンパスと二日入学です。体験授業や先輩方の授業の様子、先輩方の清々しい挨拶を聞いて、学習環境と生活環境の両方が整った学校だと感じました。そして、自分もこのような環境の下で勉学に励み、自身の夢を叶えたいと考えるようになりました。

4月に西高校に入学して、入学当初は慣れない授業スピードに加え、まだ打ち解けていない、様々な中学から集まった仲間や先生方との授業に「果たして3年間しっかりやっていたらどうか」と不安に思うこともありましたが、仲間と関わってみると、とてつもなく面白く、楽しく豊かな人間性を持った、個性的な仲間が集まっていることが分かりました。休み時間は授業で分らなかったことや、面白かったことを仲間と互いに語り合える楽しい時間となっています。その会話の中で、自分がより深く理解できることや、新しく理解できることも多くあります。仲間の存在が勉強のモチベーションになり、互いに刺激し合いながら過ごすことができていると思います。また、先生方の授業はとてつもなく分かりやすく、分からないことがあると快く教えてくださいます。先生方の話は大学進学に向けて、参考になったり、勉強において大きな刺激になったりします。先生方に熱心に教えていただけるのは大変ありがたいことだと思っています。私は今、こうした周囲の人達のおかげで充実した楽しい学校生活を送ることができています。

入学してから約3か月、これなくして1Gの3か月は語れない、というものがあります。それが7月上旬に行われたバケツ注水リレーです。毎年特進クラスが参加しているようですが、ここ最近ではコロナの影響で中止となっていました。今年は久々の開催ということで、気合十分で参加の申込みをしました。練習では的に水がなかなか入ら

ず、「どうなることやら……」と思われましたが、本番では女子が3位、4位、男子は優勝(男子が参加2チームでした)という記録を残すことができました。仲間と声を掛け合って、クラス全員で楽しめたのは、とても良い思い出になったし、水に濡れながら懸命に走る仲間の姿からは青春を感じ、とても楽しかったです。来年はさらによい結果を残せるように頑張りたいと思います。

西高校に入ってから3か月の間に、中学のころとは比にならない勉強量に戸惑い、勉強しにくいなという気持ちに駆られることもありましたが、すぐ近くには同じ環境の中で懸命に頑張る仲間、熱心に指導してくださる先生方、送り迎えをしてくれたり、私がする話を忙しい時でも聞いてくれたりする家族の存在、そのお陰で、気持ちを切り替えて勉強に取り組むことができました。今後、こうした沢山の人たちに支えられていながら、勉強をさせてもらうことになりそうです。常に感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって最大限の努力を積み重ねていきます。



「気持ちに込めたい」

3年B組 滝村 悠

私は高校からバドミントン部に入りました。中学ではバドミントンをやりたいと思っていたのですが、私の母校である東山中学校にはバドミントン部がなく、友達に誘われてなんとなくバスケやサッカーをしました。初めの頃は学校から帰った後に家の外で毎日練習をしていました。坂を走りながらボールをついたり、お父さんにゴールとバスケネットボールを買ってもらって、一日200本は入れるという目標を立てて練習をしていました。ですが、チームプレイがうまく行かず、先生に怒られてばかりでした。当然試合にもあまり出してもらえなかったため、もうだめだと簡単に諦めてしまうこともたくさんありました。それから時間がたち、気づけば部活が終わっていました。私はレギュラーでなくほとんどベンチにいたため、レギュラー選手たちのタイムアウトの時、誰よりも早く近くに行き、うちわで必死に仰ぐしかできず、マネージャー役でした。ですが、部活動の引退会で私のことをずっと見てくれていたバスケネットボール部員の親さんが私にこんなことを言ってくれました。「なんで悠が試合に出れなかったんだろう、こんなにもバスケを頑張ってる、自分が出ているのに嫌な顔をせずに選手をうちわで仰いでくれていた、本当にありがとう。」と涙を流しながらわたしたに言ってくれたことを今でも覚えています。誰にも認められたい、とそう思っていた自分が初めて認められた感じがして、涙が止まりませんでした。それから高校では個人競技で認められるように頑張ろうと決心しました。

西高校に進学してバドミントン部に所属しました。西高校のバドミントン部員はほとんどが高校でバドミントンを始めた人でしたが、みんなバドミントンがうまく、その中で自分はやっているのか、不安でした。しかし、誰よりも早くうまくなり、早く先輩たちについていけるようになりたいという気持ちが強かったので、自分の何がだめだったのか試合終わりや練習の間にアドバイスを聞きに行ったり、部活から帰って来た後でも一日5キロ走ることで、家の外でフットワークをすることで目標として立ててもいい、でも自分の中ではこれでいいのか、いつも思い、目標より少しでも多くやるよう頑張りました。5キロ走ることを決めたら、あと500m走ること、ただひた



すらフットワークをすることだけでなく、意識を持って行うことを心がけていました。その練習を続けていくなかで、先輩に追いつくことができ、自分の中ですごく達成感が感じられました。

2年になり、先生とコーチが私を部長として選んでくださいました。私はこういつた人前に立つようなことをしたことがなく、リーダーとして向いていない人で、何をすればいいのかわからず不安でした。ですが、選んでもらったその気持ちに込めたいので、まずは誰よりも声を出すことで、先生にその日の部活内容を昼休みを使って聞きに行くこと、集合時などの移動や切り替えを早くすることからやってみようと思いました。やってみると、今までは何をすればいいのかが分かるようになり、だんだんと自分の役割を果たせるようになり、当然のように自分の役割ができるようになりました。当たり前にできるようなことは、信頼できる同級生の部員の支えがあったからだと感じ、今の自分があるのは、家族や先生、みんなの支えがあったからだと感じました。

こうして今まで部活動をしてこれたのは決して当たり前なことではありません。小さなことでも感謝の気持ちを持ち、やるべきことは最後までやりきることを学び、たくさんの人からお互いに助け合うなかで、色々な経験ができました。この経験を活かしてこれからも頑張っていきます。

「幾多の困難を乗り越えて」

3年J組 工藤彩乃

「大会は中止になりました」この数年間でその言葉を何度も耳にしました。私が思い描いていた高校生活と現実とはかけ離れたものでした。

私が西高校に入学しようと決めたのは、中学3年生の夏でした。小学生からやっているバスケットボールを大好きな仲間と一緒にやりたくて、そして、中学生の時に悔しい思いを晴らすために、この学校を選びました。西高校の先輩方と何度か合同練習や練習試合をさせていただく機会があり、かっこよくて迫力のあせるプレーに憧れていた私は、「早く先輩方と一緒にバスケットがしたい!」と思い、入学前の春休みから練習に参加できることを楽しみにしていました。しかし、コロナの影響でその楽しみはなくなり、入学するのと同じくオンラインでの授業、インターハイの中止など、私たちの青春は次々と奪われていきました。そんな中でも当たり前のように時間は過ぎていきました。



1年生の秋、高校生活初となる公式戦、ウィンターカップ予選は、無観客という状態で行われました。初めてのことがたくさんあって緊張して、たけれど、先輩方の分も頑張りたいと思ひ、必死になってコートを走りました。しかし、相手は毎年全国に出場している強豪校。力の差を感じました。その後も、新人戦の中止、2年生のインターハイ予選は、またもや強豪校との対戦。ウィンターカップ予選は、ベスト8という悔しい結果となりました。

先輩方が引退し、チームも私たちの代になりました。私はキャプテンになりました。自分の立場も変わり、一つ一つの大会にかける思いも強くなりました。新チームになってからの目標は、県大会ベスト4。その目標を新人戦で達成するために、私たちは声をかけ合い、励まし合い、チーム一丸となって練習しました。しかし、コロナの感染者数は減らず、不安を感じていました。そんなとき、顧問の先生からメッセージがきました。「大会は中止になりました。現実を受け止めるには時間がかかりました。試合がで

きるものがどんなに幸せなことなのか改めて感じました。

先輩方が卒業して、より一層キャプテンとしての自覚が高まった私は、「なんとしてでもこのチームで目標を達成したい!」と思うようになりました。顧問の先生の熱い思いも受け、そのころ私たちの目標は、東海大会出場に変わっていました。その目標を達成するために私たちは、大会ができること、組み合わせを願うばかりでした。そこで私たちが行ったのは、運を引き寄せよう大作戦でした。日頃から、整理・整頓・清掃の3Sを意識し、身の回りを整えることから始めました。すると、神様は微笑んでくださり、組み合わせは願っていたところに入ることができました。絶対に勝てる!そう思いました。しかし、喜んでいたのも束の間。私たちは大きな壁にぶつかりました。コロナの影響で大会1週間前にも関わらず、練習に参加できないのは5人。正直、不安と焦りでいっぱいでした。それでもなんとか試合に出ることができました。1回戦、2回戦と順調に勝ち進み、ベスト4をかけた試合までできました。緊張もあつたけど、いつもの通りのプレーができ、勝つことができました。あと1勝すれば東海大会出場というところまでできました。しかし、力が一歩及ばず、目標は達成できませんでした。とても悔しい思いをしました。でも、それ以上に楽しかったと思えました。今まで超えられなかったベスト4という壁を超えられたこと、私たち3年生にとって初めての舞台でプレーできたこと、そして、先輩方から「ありがと」と言われたことがすごく嬉しかったです。目標は達成できなかったけど、私たちはこの大会を通して大きく成長できたと思います。これまでにたくさんの困難にぶつかり、そのたびに乗り越えてきました。大会ができること、そして応援してくださいるすべての方々に感謝し、次の大会では目標を達成できるように頑張ります。

き、勝つことができました。あと1勝すれば東海大会出場というところまでできました。しかし、力が一歩及ばず、目標は達成できませんでした。とても悔しい思いをしました。でも、それ以上に楽しかったと思えました。今まで超えられなかったベスト4という壁を超えられたこと、私たち3年生にとって初めての舞台でプレーできたこと、そして、先輩方から「ありがと」と言われたことがすごく嬉しかったです。目標は達成できなかったけど、私たちはこの大会を通して大きく成長できたと思います。これまでにたくさんの困難にぶつかり、そのたびに乗り越えてきました。大会ができること、そして応援してくださいるすべての方々に感謝し、次の大会では目標を達成できるように頑張ります。

令和4年

部活動速報

(前期)

『躍動の青い力 四国総体2022』(インターハイ)出場

- 剣道/女子団体(3大会連続3回目)
女子個人 樋口(31・2年連続)
- レスリング/男子フリー 直井(2A)
- アーチェリー/男子個人 伊藤(3J)

全国高校生グレコローマンスタイルレスリング選手権大会

- 出場予定/直井・田近(2K)

全国パソコン技能競技大会

- 出場予定/情報ビジネス部

東海高等学校総合体育大会出場

- ハンドボール/男子
- バスケットボール/男子 4位
- 剣道/男子団体
女子団体 3位
女子個人 樋口 5位
- アーチェリー/男子団体
女子団体
女子個人 鉦(3I)



- レスリング/男子学校対抗戦 準優勝
男子フリー 直井 3位・田近・笹俣(2J)
グレコ 直井 優勝・田近 3位・笹俣(2J)
女子フリー 今井(2I)・圓山(1I)4位
- 陸上/女子 100mH 鈴木(3B)・大坪(3I)
400mH 鈴木・都竹(2K)
1500・3000m 久保(2A)
走高跳 鈴木(3B)
三段跳 桂木(2K)
4×100mR 都竹、大坪、鎌倉(3I)、鈴木

飛騨地区総合体育大会

- ハンドボール/男子
- 剣道/男子(女子は未実施)
- バスケット/男・女
- バドミントン/男・女
- 陸上/女子

個人競技優勝

- 剣道/男子 井上(1K) 女子 塩田(2I)
- 陸上/女子 鈴木 400m・100mH・走高跳
久保 800m
桂木 走幅跳
都竹 槍投げ





今年もオンライン開催!



西高祭

生徒会長 3-I 原田 晋太郎

今年の西高祭は、生徒会長という立場であったことやオンラインを使用しての実施だったということもあり、準備期間を通して毎日不安を感じずにはいられていませんでした。しかし、だからこそ「仲間」の大切さを心から実感することのできた1週間だったと思います。僕はこれまで、今回ほど大きな責任を伴う役割を担ったことがありませんでした。しかし、そんな僕をサポートしてくれたのが同じ生徒会メンバーの皆んなや先生方でした。様々な場面で問題にぶつかり、悩み、考えることは多々ありましたが、その度に仲間同士で意見を交わし、互いに協力し合ったからこそ、今回のような素晴らしい西高祭になったと思っています。「仲間」をより一層大切にしていこうという気持ちにさせてくれる西高祭でした。

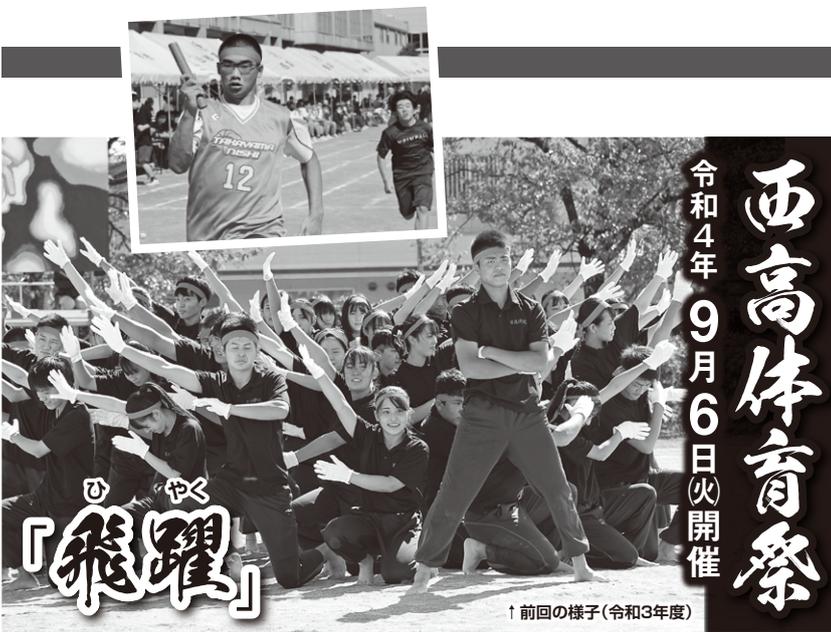
クラスTシャツコンテスト投票結果

1位:3-I 2位:3-J 3位:3-G



西高体育祭

令和4年 9月6日(火)開催



ひやく『飛躍』

↑前回の様子(令和3年度)

赤団



団長
梶崎 丈一郎
(3A)

今年の体育祭もコロナの影響で制限された中での体育祭となります。

その中でも、体育祭ができることに感謝し、みんなが楽しく全力で応援や競技ができるよう団長としての使命を果たせるよう頑張ります。また、自分一人ではできないことばかりだと思うので競技部長、サブリーダーを中心に団のみんなの協力をもらって全員で楽しむということを頭に置き活気ある体育祭、赤団にしています。

青団



団長
石崎 和志
(3H)

今年の体育祭は、団のメンバーの一人一人が活躍し、勝ちにこだわってやっていけるような体育祭にしたいです。団の雰囲気として明るく一体感が出ている結束の強い団を目指してやっていきます。コロナ禍のなか、体育祭が行われることに感謝して、自分たちにできることを精一杯やり、終わったときに達成感を団のメンバー全員が感じることできるように、全員で協力して体育祭をいいものにしたいです。そのためには、団全員の協力が必要です。

思い出に残る体育祭となるよう、一致団結で最高の体育祭にしましょう。

黄団



団長
間馬 佑介
(3I)

黄団団長の間馬佑介です。今年もコロナ禍にも関わらず、体育祭が行われることに感謝しています。制限がある中での体育祭となりますが、サブメンバーを中心に「自分たちらしさ」を全面に表現していきます。そのために、一人一人がクラスだけでなく、学年を越えての繋がりを大切に、協力して助け合い黄団一丸となって頑張ります。また、西高生全員が感謝の心を忘れず、楽しみ、記憶に残る最高の体育祭をつくりあげます。

編集後記

コロナ禍が襲ってからもう3度目の夏休みを迎えます。慌てふためき迷走した2年半でした。しかし、今年は行事も部活動の大会も欠けることなく迎えることができている。ウイルスが相手ですし、正解の分からない手探りの状態なので状況は遅々として進みませんでした。が、人間は粘り強く、したたかに生きていく力があるのだと感じています。そんな中でも高校3年間は確実に消費されていきます。部活動も学習も、高校生だからこそ打ち込める宝だと思えます。せっかくなので青春の輝くべき一瞬を、無駄に過ごすこと無く、精一杯過ごして欲しいと、人生の先輩として心から願っています。

(文化委員長)